

1 目的

仙台空港および仙台塩釜港(仙台港区)周辺における国際物流の拠点化について検討を行うもの

2 仙台空港の国際航空貨物のあるべき役割

- (1) 仙台空港を東北のグローバル拠点空港としてハブ空港化
毎日、国内外ハブ空港(羽田、仁川等)への接続をする東北+北関東の集約拠点。
貨物専用機の誘致
- (2) 仙台空港を荷主ニーズに対応したマルチな輸送、取扱いが可能な物流拠点の構築
航空、海上、陸上(トラック・鉄道)の最適な輸送方法の提供を可能とする。
特に、仙台塩釜港と近接している利点を活用した物流拠点が提供できる。
- (3) 首都圏の空港(成田・羽田)のバックアップ機能
首都圏直下型地震等のリスクに対応し、他の空港が万ーの場合、仙台空港はバックアップ拠点となる。

3 仙台空港利用の荷主ニーズ

※ 宮城県内の航空貨物利用顧客10社へのインタビュー(各社複数回答あり)

- (1) 運送コスト削減
 - a. 利用する側にもコストメリットがほしい
 - b. 地元企業が仙台空港を利用した時にメリット(料金)を受けるような制度を作って欲しい
 - c. 運賃・転送費用の削減が図られること
- (2) 物流施設の整備
 - a. 航空貨物に限らず輸出入貨物の集約・転送・保管など物流拠点施設があれば自前の倉庫を持つ必要も無くなり利用しやすくなる
 - b. あらゆる輸送モードに対応した高機能インフラ整備
- (3) リードタイム維持
 - a. 他空港と比較してリードタイムが維持されていること



- ①高次サービスが可能な物流拠点の整備
- ②新たな航空貨物ネットワークの構築

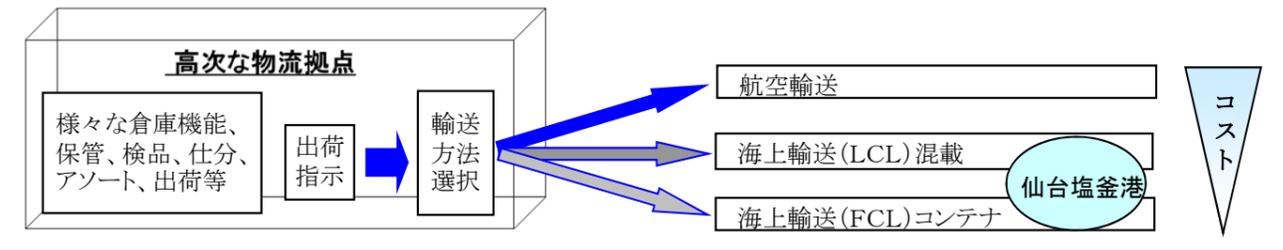
- (4) 税制、貿易手続きでの優遇措置
 - a. 恒久的な税制面の優遇が受けられるのであれば進出を検討
 - b. 税制面で有利になるのであれば考えていかなければならない
 - c. 経済特区のような税制面での優遇
 - d. 輸出入通関に要する費用削減
 - e. 貿易面で現行と比較して大幅なメリットが生まれる事(税制・貿易手続き)
- (5) 既存企業への支援
 - a. 既存企業に対しても法人税等の優遇が受けられる事
 - b. 既存企業に対しても恩恵が受けられるようにして欲しい
 - c. 特区対象業種に関連する企業にも恩恵が出るようにして欲しい
 - d. 宮城県が誘致した自動車産業へ地元企業の納入が増加するよう行政側からのサポートが必要
- (6) コンサルティング支援
 - a. 物流コンサルティング的な公的アドバイザーがいればいいのか



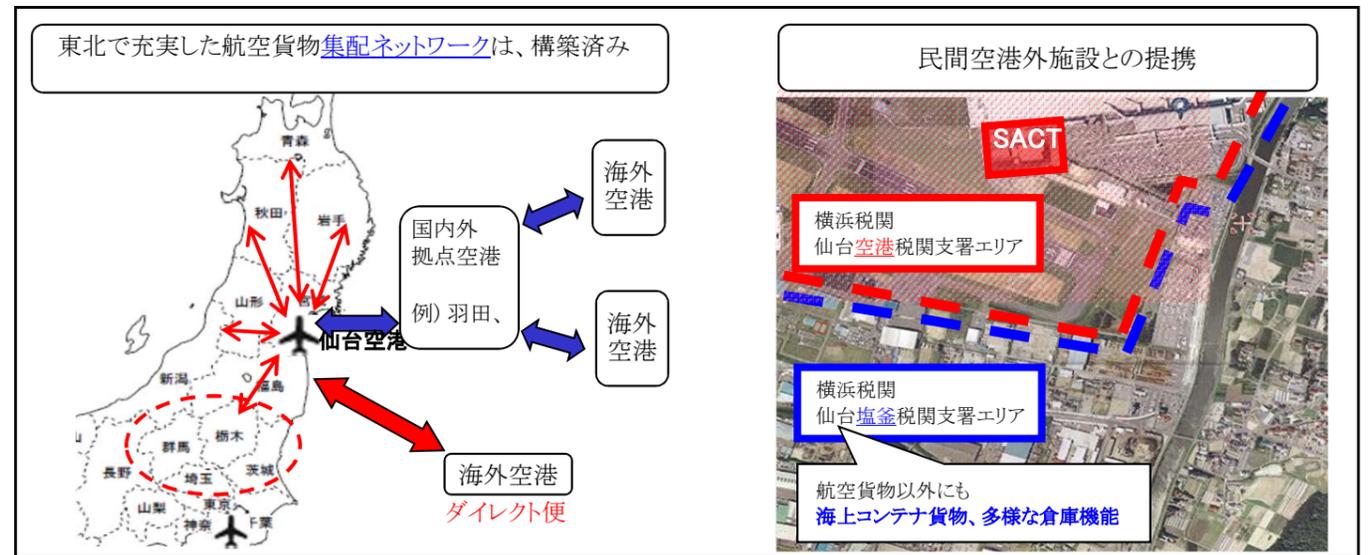
荷主のニーズに沿った特区の整備

4 高次サービスが可能な物流拠点の整備

- (1) 荷主は倉庫業務から海上、航空輸送までのトータルな物流サービスの提供を期待
- (2) 航空便の利用は必要最小限となっており、マルチな輸送方法選択を要望
 - ・ 保管業務 プラス 様々な物流加工業務も行いたい。委託したい。
 - ⇒ 民間空港外施設で実施済み



5 新たな航空貨物ネットワークの構築



6 貨物集荷のための方策

- (1) 助成金制度の創設
- (2) 空港の24時間化
- (3) 成田、羽田空港向けの早朝深夜便の創設
- (4) 新就航地の誘致
- (5) 他の国内外の特区と比較して競争力のある制度を創設

7 各目標のスケジュールイメージ

短期的目標 (~2年後)	中期的目標 (3~5年後)	長期的目標 (6~10年後)
高次サービスが可能な物流拠点の整備	貨物航空機の誘致、新路線誘致	貨物航空機による海外主要空港への直行便路線開設
仙台空港臨空エリアにおける特区制度による産業・地域振興策の検討、	ハブ空港向け航空貨物輸送開始(貨物機、旅客機)・国内フィーダー路線	特区制度を活用した産業立地物流施設整備による国際物流拠点化